



さざんか かつう学園 宗像市立河東中学校
学校通信第3号(R5. 4. 17)

7年生と8・9年生の対面式を行いました
～14日(金)には発育測定、交通安全教室、
部活動紹介、体育祭ブロック抽選会も開催～



先週14日(金)はたくさんのプログラムを行いました。入学式には在校生の代表者しか参加しなかったため、7年生と8・9年生の正式な顔合わせである対面式を行いました。

また、部活動紹介を開催しました。新入生にとって大きな関心事の一つは部活動をどれにするかでしょう。8・9年生の部活生は、どの部も趣向をこらして活動内容や練習方法などを紹介してくれました。日々の活動の中でどういう練習をしたり、どんな作品を作ったりしているのかを、それぞれの部のパフォーマンスで表現豊かに紹介していました。

さらに、本年度の体育祭でのブロック割を決める抽選会を行いました。

今年の体育祭ブロック割が決定!



	青	緑	ピンク	黄	赤	オレンジ
7年生	2組	1組	5組	3組	6組	4組
8年生	5組	3組	2組	4組	1組	6組
9年生	1組	2組	3組	4組	5組	6組

日本の強いチームがやっている“場を整える” ～WBC 侍ジャパン・サッカー日本代表・ホークスの共通点～

強いチームは「場を整える。環境を美化する。ゴミを拾う。清掃する。」

スポーツの世界で強いチーム・勝ち続けるチームの共通する背景があるようです。強くなった理由はいくつかあって、その理由の一つにしかすぎませんが大切な要因のようです。

WBC の侍ジャパン、サッカーワールドカップ日本代表、ソフトバンクホークス。この強いチームは共通して、ベンチがきれいに整っています。選手たちは球場のゴミを拾い、美化に努めています。チームのサポーターや応援者も観客席をきれいにします。チームの強さと場を清めることの関連性はどこにあるのでしょうか。河東中のみなさんにぜひ知っておいて、その背景を探ってほしいと思います。



4月13日の西日本新聞のコラムにこんな記事がのっていましたので紹介します。

『野球の世界ベースボールクラシックでは、大谷翔平選手ら侍ジャパンの活躍に加え「ごみ一つ落ちてないベンチ」も称賛（*ほめたたえること）された。サッカーの世界カップでも日本代表がロッカールームを掃除して引き揚げて話題に。日本独特の美德と称賛してくれる海外の声もあるが、球場もベンチも「使わせてもらっている」という意識があれば自然な行動かもしれない。

昔のプロ野球ホークスのベンチは決してきれいではなかった。「美化に取り組んだのは鳥越裕介さんですよ」と関係者から聞いた。2軍監督に就任した2008年秋、雑然としていたスパイクをそろえたり、ペットボトルを拾ったりと率先して行動した。ただルールにはしなかった。

「言うのは簡単。強制されるよりも自発的にやらないと続きません」。鳥越さんは語る。「野球はチームプレー。足元をそろえることは足並みをそろえることにもつながります」その姿を選手はしっかりと見ていた。

1年後、地方球場での試合だった。スパイクが整然と並んでいる光景にじんときたという。2軍から始まったホークスの「伝統」。鳥越さんの薫陶（*良い影響）を受けた今宮健太選手らによって1軍にも当然のように広まった。』

みなさんに置き換えると、部活動やクラブチームでこのようなことが行われているでしょうか。ぜひ参考にしてほしいと思います。河東中の部活動の多くはできているのではないのでしょうか。まだのところは今年のチームはそうしていきましょう。

また、河東中という学校自体どうでしょうか。クラスはどうですか。下足置き場の下靴や上靴はきれいに並んでいますか。教室の床にゴミはありませんか。トイレはいつもピカピカですか。それができるようになれば、きっと今以上に学力が上がり、学校力も向上するでしょう。この新聞記事をもとに、ぜひ、自分のまわりの環境を考えて、自分のできることに思いを至らせてみてください。

河東中学校では、今年も学校教育目標のサブタイトルに「真善美を追究する生徒の育成」を掲げています。中学生年代で美意識を養い、美意識を鍛えることは将来どんな職業に就いても必ず役に立ちます。それは、将来、美意識でもって判断ができ、美意識でものが創造でき、美意識によっていい仕事ができるからです。